

企業名： 三菱マテリアル株式会社

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

概ね理解できた。

当社の目指す姿は6ページから17ページに渡る「トップからのメッセージ」から読み取れる。その中でも、同箇所のはじめに記載されている図1「22 中期経営戦略」にわかりやすくまとめてあると感じた。当社の目指すべき姿は「人と社会と地球のために」で、更に細かく分けると「社会的価値と経済的価値の両立を図る」「豊かな社会・循環型社会・脱炭素化社会の構築に貢献する」の大まかに2つにある。地球や環境問題に取近年の注目の話題である環境に優しい企業づくりとして、リサイクル可能な製品、再生可能エネルギーの開発・利用を進めている。この目指すべき姿を第一に記載することで、材料開発、生産の一線で活躍する当社のイメージの向上に繋がる。特に、当社は他の業種と比較して、材料の生産や開発を通して、そういった環境問題に直接的に取り組みやすいため、より高いイメージアップ効果があると考えた。事業の面においては、セグメントごとに過去数年間を通した反省をし、セグメントの手掛ける製品説明をした上で、過去の財務情報とともに持続可能な社会への貢献度が三角形を用いた図で非常にわかりやすく説明されていると思う。概ね分かりやすい資料であるが、目標に掲げている「社会的価値と経済的価値の両立」という点が少し分かりづらいつと感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できた。

当社の競争優位性は28ページの「三菱マテリアルグループの強み」から主に読み取れる。ここからは150年という長年の努力によって培われた、技術や取り組みがわかる。特に私が興味深く感じたのは非鉄精錬所とセメント工場を連結させた「精錬・セメント工場資源化システム」である。これは社会で発生する様々な廃棄物・副産物を再び価値のある資源として活用させるための設備である。現在の多くの工業製品が作られており、その際に排出される廃棄物はときに公害を引き起こし、甚大な被害を被るので、こうした設備は社会においては必要不可欠であると考ええる。またこうした大型設備は規模の大きな企業でなくてはならないため、競争優位性は十分に働くとと思う。

また近年ではベンチャー企業の活躍も目まぐるしいが、その活躍には資金面や技術面において、大企業のサポートが必要だと思う。特に製造業はアイデアを工場などで実際に実践に移す、ときには商品化のために大量生産が可能かを検証する必要があるだろう。ベンチャー企業を支えるという役割を当社は持つと考えるので、競争優位性は十分にあると思う。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

本レポートの2で取り挙げた事業について、持続性があること示す。2では大規模な施設を作れることは当社の競争優位性に繋がると述べたが、これは持続性にも繋がる。なぜなら、大規模設備を建設できる企業は簡単には出現せず、当面の間は当社を始めとする大企業の存在が必要だからだ。また、2では当社とベンチャー企業との関係性を述べたが、つぎに同業種のライバル企業との関わりを考察する。報告書には大企業のライバルとどのように共存または戦って行くのかについての記述が足りないと感じた。確かにこの材料分野は特許の取得をしていれば、ライバル企業に進出される可能性は低いかもしれないが、持続性を保つ上ではどうライバル企業と共存・競争をして行くのかを明記するべきだと思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

すでにキャリアを積んでいる人材は成長すると見込まれるが、新人や若手の育成はこの報告書の内容から判断すると不足しており、難しいと思う。

当社は社会のデジタル化に伴って、「MMDX」というグローバルな競争に打ち勝つDX戦略設けた。これによって、社内デジタル化のスピードが加速し、顧客接点の充実、プロセス連家の強化、経営スピードのアップを図ろうとしている。これは基盤の活動をより効率的かつ効果的に行うことを可能にするだろう。

また、かつては人材を必要とするところに内部の人材を充当させ、経験不足の部分は育成しながら補ってきたが、今後は多様な視点を取り入れる意見はという観点からも外部からの中途採用者の活用を進めていくと9ページ後半に述べられている。私がこの文章を読んで感じたことは、中途採用の活用によって、会社全体は活性化するかもしれないが、新人や若手をどう育成するのか、またサポートしていくかについての記述が不足していて、当社での人材育成は難しいのではないかと思った。当社に就職したいと考える人にとっては自分が当社でどのような成長できるかを重視し、志望先を決めるので重要な情報だと思う。この文章だけからは能力がなければ、自分よりも能力のある人に簡単に変わられてしまうのではないかという不安を覚えると思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

改善策としてわたしは3点を提案する。

- ・本レポートの1の最後に指摘した目指す姿の両立がわからないという点への改善策として、わたしは両立を強調したいのであれば、天秤の図を加えるなどしてどちらか一方のみに力を入れているのではなく、両立を目指していることを強調するべきだと思う。

- ・本レポートの3の競争優位性の持続性でも触れたが、ライバル企業に対する戦略がもう少し具体的に述べられているとなお良いと思う。また、このライバル企業との関係を述べる上で読み手に更にわかりやすく説明するために、現在の業界の動向の記載を設けるとより一層分かりやすいものになると思う。

・本レポートの4で指摘したが、新入社員や新人の育成にも、もちろん力をいれているはずなので、実際にはどのような育成をしているのかを紹介できると更に良いものになると思う。こうした、新入社員向けの情報を充実させることはより優秀な人材を初めから集められるという点でより高い効果が現れると思う。